

資源循環の推進についてお伺いします。
国では、環境省が令和元年5月に3R＋再生可能を基本原則とする「プラスチック資源循環戦略」を策定、同10月には公明党が強力に進めてきた「食品ロスの削減の推進に関する法律」が施行されました。

東京都では「ゼロエミッション東京戦略」にて、食品ロスの発生量を現在の約50万トンから2030年には40万トン弱に減らし、2050年にはゼロにする目標を発表しました。

そのため、食品メーカーや小売り、外食産業に対してまだ食べられる食品のフードバンクへの提供などを広く促し、それでも発生する食品ロスは飼料や肥料とするそうです。

そのような中、練馬区は環境計画2020（素案）の清掃・リサイクル分野にて、みどり溢れる循環型都市を目指し、「ごみの発生抑制・再使用の推進」「多様な資源循環の推進」「適正処理の推進」等の方針を打ち出しました。

はじめに、東京都などの数値目標を受けて、区の食品ロス削減の目標をどのようにお考えなのかご所見をお聞かせください。

二点目に、練馬区のフードドライブについてお伺いします。一昨年より、月を決めて集中的にフードドライブに取り組みられており評価させていただきます。

区報等にて周知にも取り組みられ、回を行うごとに多くの食品が集まるようになりました。

しかし、区民の皆さまからは、消費期限が残っている食品を持っていこうと思ったが、近くのリサイクルセンターでの持ち込み期間が終わっており捨ててしまったとか、不要な食品が発生したタイミングとフードドライブ実施期間が合わず廃棄したなど、年2回ほどでは少なく、食品ロス区民運動として広がらないと考えます。そこで提案ですが、食用廃油・なべ・古布などの回収のように、例えば奇数月の第2土曜日実施など、わかりやすく定期的に行うべきと考えますが、区のご所見をお聞かせください。

三点目に、プラスチック資源循環についてお伺いします。

プラごみ対策として本年7月からレジ袋の有料化が始まります。区では、すでに昨年の12月より区役所の売店・食堂でのレジ袋やストロー、

会議等でのペットボトル配付を原則廃止するなどプラスチック使用削減の取り組みを始められました。この点につき評価させていただきます。

しかし、プラスチック製品はレジ袋やストロー、ペットボトルだけではなく、売店で販売しているお弁当の容器などもあります。

容プラは洗ってきれいな状態であればリサイクルに回されますが、油が強く簡単に取れないと燃えるゴミ扱いになってしまいます。

最近、この問題を解決するため「はがせるトレー」というはがせるラミネートフィルムが施してある容プラが発売されております。

東京駅の地下お弁当街では、丸の内エコ弁プロジェクトと題して、お弁当に使用するプラスチック容器をすべてリパックされたはがせる容器に切り替え、食べ終わったお弁当容器をすべてリサイクルに回し、ゴミの発生も減らしております。

プラスチック使用削減を始めた練馬区でも、ぜひ、このようなエコ弁プロジェクトを実施すべきと提案しますが、区のご所見をお聞かせください。

<副区長答弁>

平成 27 年度のごみの組成割合をもとに推計すると、区内の事業系ごみのうち、約 1,900 トンの食品が利用されずに捨てられています。家庭から排出される分を加えると、区内の食品ロスの発生は相当量になると考えています。食品ロスの削減を一般廃棄物処理基本計画の重点事業に掲げ、フードドライブ事業の実施等に取り組んでいます。

フードドライブ事業は平成 29 年の秋から開始し、現在は年 2 回、環境関連イベントで実施しています。実施回数を増やすためには、人手の確保などの問題もありますが、家庭で利用できない食品を回収できるよう、検討してまいります。

昨年 12 月に「練馬区役所プラスチック削減指針」を策定し、既に先月から区役所内の売店等のレジ袋の配布を原則廃止しています。

庁内で発生する弁当容器は、区が産業廃棄物として回収し、リサイクルしています。

プラスチックの弁当容器を再資源化するためには、容器汚れへの対応と、回収および再資

源化ルート of 構築が必要です。今後も、先進事例などを調査・研究しながら、プラスチック削減の取り組みを進めていきます。

以上